

# マリのアリウン・ブロンダン・ベイ平和維持学校（EMPABB）がサヘル地域で民間人の保護を行うための知識と能力の向上支援



## ファクトシート

日本補正予算：2021年3月～2022年3月

予算：90万米ドル

主なパートナー：マリ平和維持学校（EMPABB）

### 目的

サヘル地域における紛争の防止および管理を行う国家および非国家主体の能力を強化し、EMPABBの後方支援および技術に関する能力を向上させる。

### プロジェクトの成果

**成果1：**サヘル地域の国家および非国家主体（軍、警察、民間人など）が、民間人の保護、ジェンダー、平和と安全、リスクおよび災害管理などの分野に関する知識と能力を獲得し、向上させること

**成果2：**EMPABBの後方支援および技術に関する能力を強化すること

### SDGsへの貢献

このプロジェクトは、SDGsの目標16に貢献します。



From  
the People of Japan

### 開発課題

サヘル地域、とりわけマリ中央部における治安悪化とそれが人々にもたらす影響は次第に悲劇的な様相を呈してきており、確固とした安全保障上の対策が急速に必要とされています。

政情不安は西アフリカでますます広がっており、一般的には特に、ブルキナファソ、マリ、そしてニジェールの3カ国が国境を接する地域（リプタコ・グルマ地域）において顕著です。このため、司法に加えて教育や医療といった基本的な社会サービスの提供が停止される事態となっており、地方行政の存在が脅かされています。

国連人道問題調整事務所（OCHA）によると、2020年6月17日現在、マリには25万人以上の国内避難民がいました。

加えて、2020年3月に世界的大流行の状態にあると宣言された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、マリの社会的、経済的状況はさらに影響を受けています。